

「共生型地域複合サロンよるのにじ」 (NPO) ゆうゆう <江別市>

「共生型地域複合サロンよるのにじ」は、多くの集合住宅が建つ住宅地の商店街にあります。

以前は高齢者向けのまちづくり拠点として使用されていた建物を借り受け、改修し、平成21年から共生型の施設として活用しています。

「よるのにじ」というユニークな名前は、子ども達が黒い紙に虹の絵を描き、その自由な発想に大人が驚き、そこから名付けられたそうです。

建物は2階建てで、1階には、地域の住民が利用できる地域交流サロンとドーナツやケーキの製造・販売、カフェ、駄菓子販売を行う障がい者の就労継続支援事業があります。

地域交流サロンを中心に地域の方々による様々なイベントが行われています。高齢者は、サロンを利用するだけでなく、経験や能力を生かして、子どもたちに遊びなどを教える先生役を担っています。紙芝居、詩吟、囲碁や団子づくりなどの行事が定期的に行われ、小学3～4年生を中心に多くの児童が行事に参加しています。駄菓子を買うに来る子ども達は、「こどもスタッフ」を結成し、自ら記事を書いて新聞を発行したり、自治会のゴミ拾いに参加したりしています。

障がいのある方々が働く厨房は、ガラスで仕切られ、ドーナツなどが作られている様子を見ることができます。働く障がいのある方々とカフェのお客さんが会話を交わすなど交流が深められています。



2階では、特別支援学校や養護学校の生徒などを対象とした放課後等デイサービスが行われています。スタッフに加え、多くの大学生ボランティアが運営に関わっています。放課後等デイサービスの利用がない時間帯は、子育てサロンとして無料開放されています。子育てサークルも利用していますが、子育てサークルに入っていない方にも気軽に利用してもらえよう、パンフレットの配付やイベントの開催によりPRが行われています。

このように、「よるのにじ」は世代間交流と福祉サービス事業などを組み合わせ、高齢者、障がい者、子ども、子育てをするお母さんなど様々な方が利用する地域の交流拠点となっています。

